

# 環境から始めるSDGs 活動のヒントと事例

## 埼玉県鍍金工業組合



埼玉県鍍金工業組合

埼玉県 環境部環境政策課

### 埼玉県の支援策

### 【埼玉県環境SDGs取組宣言企業制度】



埼玉県では、環境分野のSDGsのゴールの達成に向けた取組を宣言し、一定の要件を満たす企業等の取組を県ホームページ等で発信し、支援しています。

#### ・対象

埼玉県内に本社又は支社等を有し、県内において事業活動を行う企業、法人、団体、個人事業主

#### ・宣言企業のメリット

- ✓ 県ホームページ等で環境分野のSDGsの取組がPRできます。
- ✓ 先行事例の情報収集や企業等のネットワークづくりができます。
- ✓ 地域での信頼獲得や新たな事業機会の創出につながります。
- ✓ 取組のPRで企業イメージが向上し、多様な人材の確保につながります。
- ✓ ビジネスの取引条件に対応できます。
- ✓ 社会的な課題への対応により自社の取組が深まります。

#### 【手続きについて】

自社の環境SDGsの取組を見つめなおしましょう

#### ■ ステップ 1 取組宣言書の提出

はじめに、取組宣言企業となるための「宣言書」を御提出ください。

宣言後、県ホームページの一覧表に企業等の名称、取組項目等を掲載します。



#### ■ ステップ 2 取組報告書の提出

以降、原則1年ごとに進捗状況を確認し、「取組報告書」を御提出ください。報告後、報告いただいた取組内容、成果、PRポイント等を県ホームページに掲載します。



環境SDGsの取組を更に進め、継続しましょう

お問合せ：埼玉県 環境部 環境政策課  
(電話：048-830-3019 メール：a3010-11@pref.saitama.lg.jp)

# CONTENTS

- S D G s 活動を目指して …… 2
- S D G s とは …… 3
- 環境から始める S D G s …… 4
- ここから始める環境 S D G s 活動 …… 5
- めっき業界の環境 S D G s 活動のヒント …… 7
- 取組事例
  - 吉野電化工業株式会社 様 …… 11
  - 日本電鍍工業株式会社 様 …… 13
- 埼玉県の支援策
  - 埼玉県環境 S D G s 取組宣言企業制度 …… 15



# S D G s 活動を目指して

環境委員会より

昭和30年代頃から産業界は、技術革新の急速な伸展により耐久消費財を中心に、生産体制の量産化へと大きく転換した時代でありました。もちろん我々めっき業界も著しい成長発展をしましたが、一方それに伴う産業公害が社会問題化した時代でもありました。

昭和33年に水質保全法並びに工場排水法が制定されましたが、度重なるシアン等の有害排水問題により、毒劇物取締法の改正、水質汚濁防止法の制定等により、公害防止対策に緊急に対応しなければならない状況が生まれました。しかし、公害防止対策には多大な投資や最新の排水処理技術を要する事や事業所単位での対応には限界があることから、公害防止対策を総合的効率的に推進するために昭和41年に埼玉県鍍金工業組合が設立されました。それから半世紀余り、水質汚濁防止法をはじめ様々な環境に関する法律の制定や改正により、我々めっき業界はますます厳しい状況に置かれています。

最近の企業コンプライアンスが叫ばれる中、排水規制等法律の順守徹底はもはや「当たり前」の事であり、近隣への環境対策や社内安全衛生、従業員の働き方改革、地域への社会的貢献等、企業の「社会的責任」は年々大きくなっていきます。

埼玉県鍍金工業組合は、埼玉県をはじめとする環境行政に常に協力し真摯に対応してまいりました。今後もより良い社会の形成のために努力してまいります。

今回、我々が取り組むべき環境対策の活動のひとつとして「S D G s」を取り上げました。今後めっき業界の発展のために、各企業の皆様と共に前向きに S D G s を推進いたしたく、埼玉県環境部様と本冊子を作成しました。

皆様の環境対策活動の一助になることを祈念します。

# SDGsとは

地球温暖化が進むことで、今後豪雨災害や猛暑のリスクが更に高まることが予想されています。

SDGs (Sustainable Development Goals 持続可能な開発目標) は、「誰一人取り残さない」より良い世界へ変革することを目指して、

- ①貧困や飢餓、教育などの**社会**の課題
- ②エネルギーや資源の有効活用、働き方や不平等など**経済**の課題
- ③気候変動など地球**環境**の課題

という、3つの側面から捉えることのできる17のゴールを、自分事として、私達が事業活動や普段の生活から、少しずつ、未来の子供たちに良い社会、地球を引き継ぐことができるように活動していくものです。



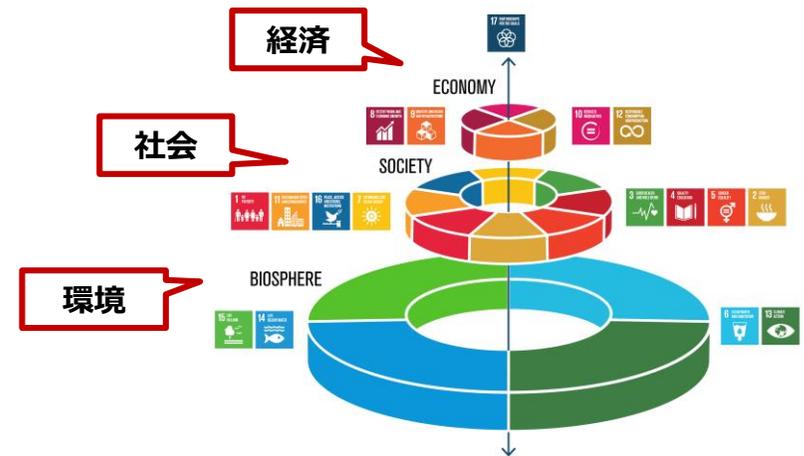
# 環境から始めるSDGs

埼玉県環境部から

SDGsは、17ゴールのうち、「12 つくる責任つかう責任」「13 気候変動に具体的な対策を」など9つのゴールは廃棄物問題、地球温暖化といった環境分野の課題に大きく関わっています。

下図で示されるように、SDGsは環境を基盤に持続可能な社会や経済を築くことを目指しています。

埼玉県環境部ではSDGsやパリ協定の採択、ESG投資の拡大で、企業等に環境配慮の取組がより一層求められていることから、埼玉県鍍金工業組合様をはじめとする関係団体様や企業様等の環境分野のSDGsへの取組を支援しています。



出典：Stockholm Resilience Center

# ここから始める環境SDGs活動

## 1. 実はすでに取り組んでいる「環境SDGs」活動

これから、環境SDGs活動に取り組もうとしている方も、多いかと思います。

めっき業界は、「めっき液」という化学的な液を使用し製品化するため、高度経済成長以降、地球環境保護という時代の要請に応えるべく技術の革新を続け、大きく発達、多様化させてきました。

特に排水基準やRoHS指令などの規制に対応することが必要であることから、環境対策と技術革新を両立させながら成長してきた業界です。

今まで

- ・ 排水基準を順守している。
- ・ 土壌汚染の対策をしている
- ・ ISO14001を取得、研修を受講した

等々



このような活動は、すでに取り組んでいる「環境SDGs」活動の一部です。

## 2. お客様とのサプライチェーンのなかでも取り組んでいる

今の事業活動の中では、環境面の取組は必要不可欠な取組です。環境面に取り組むことは、コストダウンなどにつながります。下記のように既に取り組んでいる事項もあると思います。



- ①環境に配慮した原材料の調達をしている
- ②製品の製造
  - ・ 水の使用量を減らしている
  - ・ 環境への負荷を考えて化学物質を使用している
  - ・ 無駄なエネルギーを使わない
  - ・ 分別回収する
  - ・ 働きやすい環境を整える
- ③エコドライブを推進している
- ④在庫を減らす

等々

## 【 環境SDGsの基本 】



省エネ・省資源という環境視点をもって品質改善、生産性向上、稼働率向上などの現場改善を行なっていくと、結果として環境改善と経営改善が一緒に図れます。

⇒ **環境SDGsは「5S」と「省エネ・省資源」が基本です。**

5Sと省エネ・省資源は、皆様がすでに取り組んでいます。まずは、難しく考えないで、一緒にいまやっていることを、見直してみましょう。普通に思える事も他の人から見ると、とても良い活動だったりするんです。

下記の当てはまることはありませんか？

- ✓ 休憩時間は消灯している
- ✓ 社内の照明をLEDに変えた
- ✓ 社内の紙は裏紙も使用している
- ✓ エアコンを省エネ型に更新をした
- ✓ 通勤時の運転はエコ運転を推奨している
- ✓ エコキャブ活動をしている
- ✓ デマンドコントロールで電力を見える化している
- ✓ 会社周辺の清掃活動をしている
- ✓ ごみゼロ運動をしている

等々

いくつか、当てはまりましたか？

このような、いままで行ってきたことも、環境SDGs活動の一部です。



# めっき業界の環境SDGs活動のヒント

## 【「3R」を行動の基本とする】

さらに、環境SDGsの取組を推進するために、「3R」がヒントになります。

### ① Reduce (発生抑制)

- ✓ 使用済みのものなるべくゴミとして廃棄されないように配慮して製造・加工・販売すること
- ✓ ゴミを減量化するために資材・薬品等を過剰に投入しないこと
- ✓ ゴミになるものを受け入れない

### ② Reuse (再使用)

- ✓ 使用済みのものをゴミとせず再使用すること
- ✓ 使えるものは何度でも使う
- ✓ 修理して使うことも含む

### ③ Recycle (再生利用)

- ✓ Reuseで済まずに廃棄されても、再生資源に戻して利用すること
- ✓ 捨てればただのゴミも分別すれば資源となる
- ✓ ただし、再資源化する際にエネルギーを使うことも考慮する

この活動により

投入する資材・薬品を減らす



不良、廃棄が減る



投入する素材・薬品・水・エネルギーのムダがなくなる

ことが、特に環境面の取組につながります



# めっき業界の環境SDGs活動のヒント

## 1. 水の使用

- ✓ 水の使用量を減らす
  - ⇒ 注水：生産時と停止時の流量を変更する
- ✓ 蒸発の抑制
  - ⇒ 槽に蓋をする、高温を避ける
- ✓ 洗浄水の再利用
  - ⇒ 仕上げ洗浄水を粗洗浄にオーバーフローさせて再利用



結果的に事業所全体の排水量の削減につながっていきます。



## 2. 化学物質の使用

- ✓ 化学物質の使用量を減らす⇒建浴の見直し・槽の小型化
- ✓ 蒸発の抑制：槽に蓋をする、高温を避ける
- ✓ 結果的に廃棄物の削減につながる



# めっき業界の環境SDGs活動のヒント

## 3. エネルギーの使用

- ✓ エネルギーの使用量を減らす  
⇒ 槽の小型化、断熱をする、温度管理を行う
- ✓ 蒸発の抑制  
⇒ 槽に蓋をする、高温を避ける
- ✓ CO2の排出にも気を付ける  
⇒ 高効率ボイラを導入する
- ✓ 化石燃料（重油・灯油・LPG・都市ガス）の使用の見直し  
⇒ 再生可能エネルギーの使用へ



- 全自動大型めっきラインから、半自動小型めっきライン（右）へ



## 4. 有害廃棄物

- ✓ 化学物質の使用量を減らす⇒有害廃棄物の排出抑制
- ✓ Recycle（再資源化）を進める
- ✓ 汚泥（スラッジ）の安全な分離と保管



# めっき業界の環境SDGs活動のヒント

## 5. 作業環境の改善

- ✓ 作業への負担を減らす
- ✓ 高温下の作業の見直し⇒適切な空調、空調服、転倒防止



## 6. めっきラインの改善

- ✓ 小型化・軽量化・メンテナンスの容易化
- ✓ 治具の再利用  
⇒ 使える部分の活用
- ✓ 梱包材の削減・再利用  
⇒ 段ボールの見直しや通箱へ
- ✓ 梱包材の緩衝材への活用
- ✓ 緩衝材の再利用

- ひっかけ治具の再利用



## 7. 商品の物流：温室効果ガス

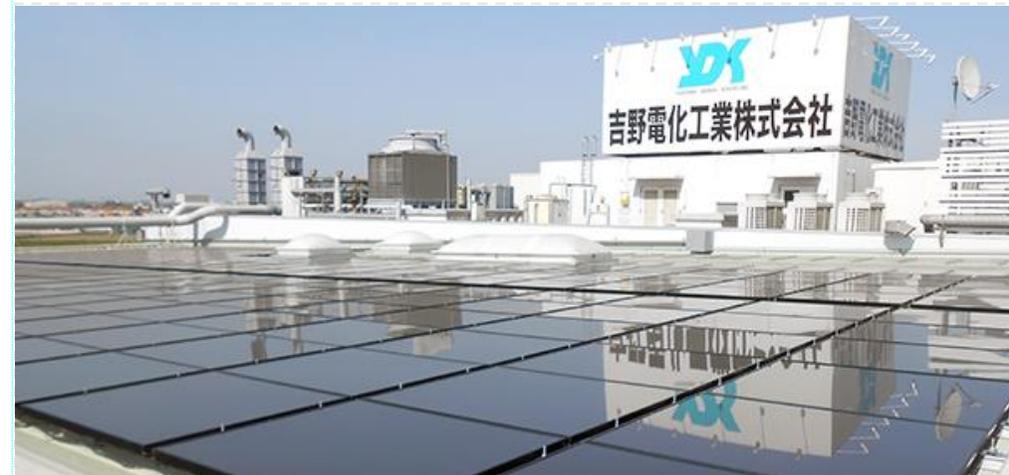
- ✓ 配送車のエコドライブ
- ✓ 配送ルート効率化
- ✓ 納入の帰り便を活用して集荷をする
- ✓ 空車を減らす 等



## 8. 商品の販売：在庫精度、廃棄ロス

- ✓ 在庫管理の精度向上させて、廃棄を減らす





## 吉野電化工業株式会社

専務取締役 吉野正洋様

### 「トップダウンで進めていく社会貢献が環境経営やSDGsにつながっていく」

#### ■ SDGsに取り組むきっかけ

2017年に文科省JSTが主催しているPM（プログラムマネージャー）育成研修でSDGsに関する講義を受けSDGsの重要性を理解した。その後、子会社がある石川県で実践企業の講演を聞き、企業のSDGsへの取り組み方、特に製造業でもできることを学び、自社でも実践しようと思った。取り組むことが社会貢献であり、企業は社会の公器という観点に分かりやすい。実際に事例を聞くと、SDGsが身近に感じることができた。

#### ■ SDGs活動のはじめの一步

既に社内で行っている様々な活動とSDGsの結び付けから始めた。それを文書化し、明示して社内の掲示板やHPに掲載した。SDGs研修を社内専務自身が行い、主任以上が参加した。これが、社員の皆さんの考え方をえるきっかけになったとの意見もある。

#### ■ SDGs活動の内容

これまでアピールしていなかったが、最近は少しアピールを始めている。

- ・エコキャップの収集活動
- ・「YDKクラシックスペシャル」：隔年年始に実施している地域貢献。吉川ジャズの協賛も今まではあまりPRしてこなかったが、もっと知ってもらいたいということでHPにだすようになった。
- ・子どもの教育：出前実験で、めっきの原理など子供に伝えている。
- ・長く働ける環境づくり：男性育児休暇の採用の方が出たので「くるみん」がプラチナになった。基本的には、60歳定年。65まで再雇用が基本。女性の育児休暇も戻ってくるのが前提。やめることはないのが前提で引継ぎなどしているので、働き甲斐につながっている。
- ・CO2排出量削減の取組、太陽光発電、LED化も進んでいる。



・次世代技術の開発「パラジウム-ナノカーボン触媒処理プロセス」の開発、「磁性めっき」はシールド鍍金に必要なものであり、高周波ノイズを抑えている。車載用、5G対応の耐熱性や熱伝導性。ABSからの進化、エンブレへの進化に対応した製品開発を進めていくことが重要と思う。特に大学との共同研究では、基礎と開発について役割を分けながら進めている。

#### ■ SDGsを取り入れたメリット

メリットはこれから出てくるものと考えている。取引先や業界、行政からのイメージアップ、従業員のモチベーションアップにつながると考えている。

残念ながら業績的にはまだ効果は少ないと思う。しかし、まだ効果はなくとも、やっていることで外部からの評価がプラスされている。また、そこで会える人脈も大きな財産になる。同じ方向を向いていると、新たな業界枠組みや別のつながりがビジネスにつながると思う。

会社のビジョン、中長期経営計画を現在見直しているところである。コロナ禍においては、今までの産業構造が大きく変化している。当社のビジョンも経済や社会環境に合わせて考える必要があると考えている。働く場所ということが重要で、従業員が安心して働けることを提供したい。

#### ■ SDGsを定着させるための施策

常に見えるところに取組内容などを掲示し、（男子トイレの使用時の目線のところなど）HPも定期的に更新している。



#### ■ 会社概要

吉野電化工業株式会社  
本社 埼玉県越谷市越ヶ谷5丁目1番19号  
創立 1935年(昭和10年)1月5日  
代表取締役 吉野 寛治  
URL : <http://www.yoshinodenka.com/>

SDGs推進のための組織はなく、現在はトップからの指示で進めている。まだ、利益が出にくい、費用がかかる時期もあり、担当者が言いにくい面もあるので、トップが推進しないと取組は進まない。

今後は、人事制度にも含めて、目標の中に環境経営の視点を入れていく。最終的には、コストダウンにもつながるし、環境経営につながる。

会社全体は週に1回経営方針の会議がありSDGsの話は出ている。専務自らグループや事業部活動に参加したり、経営会議で役職者の方にSDGsの話をするようお願いしている。

子会社は「かわら版」など社内報にメッセージを載せていく。

#### ■ 他社へアドバイス 等

まだまだアドバイスができるような立場ではないが、始めは、社会貢献のための取組と考え、会社のためという考えは捨てたほうが良い。本気で取り組み続ければ、従業員の教育・意識向上、会社のイメージアップ、新しいネットワーク、新しいビジネスへの展開など可能性は広がる。また環境経営との親和性も高いので、環境経営のレベルも上がる。

他者のものをひとつでも真似してみることで良いのではないかなと思う。





## 日本電鍍工業株式会社

代表取締役 伊藤麻美様

### 「経営理念と共に活動していること、それがSDGsの理念と同じだった」

#### ■ SDGsに取り組むきっかけ

SDGsありきではなく、経営理念として「アースフレンドリー」を2007年に制定した。私たちが作っている製品は、付加価値や技術だけでなく愛情がある人が作らないと、加工している製品に思いが伝わらないと思う。そのような人が作った製品だからこそ、お客様の笑顔や喜びにつながり、私たちの達成感や売上げにつながる。普段の生活でも弱いものに手を差し伸べることなど人を思いやる気持ちが、よりよい社会の形成につながっている。

理念を細かく説明してできることを取り組んでいるが、当たり前になっていたことが、近年、SDGsとして注目され、振り返ると同じことをやっていた。SDGsは商売道具ではない。やっていることを宣言することで、自らの姿勢を正すことも大切だと思う。

#### ■ SDGs活動のはじめの一歩

当社の考えは、もともと三方よしであり、いい品物をつくるために、いい人を育てていくことが大切としており、そこから始まっている。



#### ■ SDGs活動の内容

現在、改めてSDGs活動ということを行っていない、ホームページにSDGsページを作成しているように、当社の取組そのものが活動である。（一部を抜粋する）

- 【環境】
- ・ISO14001の取得
- ・廃棄設備による作業安全の効率化
- ・排水設備による環境汚染防止
- 【生産管理】
- ・生産管理システムの導入による生産効率化
- ・5S委員会設置による改善活動
- ・ISO9001の取得
- ・OJT制度の実施
- 【事業における価値創造】
- ・再生利用可能な梱包材の使用
- ・資材回収による再生利用の促進
- ・太陽光発電による再生エネルギーの活用
- ・LED照明導入によるエネルギーの効率改善
- 【ステークホルダーとの共創】
- ・工場見学会の実施
- ・障害者の雇用
- ・バリアフリー化



- ・育児休暇の取得支援
- ・資格取得奨励金の給付
- ・社内外の研修の受講
- ・職業体験の受入れ
- ・従業員の家族を対象とした工場見学

#### ■ SDGsを取り入れたメリット

新年度の発表会で経営方針に入れたり、朝礼でSDGsについて説明したりすることで、定着していくし、それはSDGsばかりではない。

ビジネスでも利益ばかりではなく、社会の公器として、社員の家族も含めて一緒に社会に役立つという気持ちが大切ということを伝えてきた。想いは徐々に通じているようで、当社HPのSDGsページは、社員が自ら企画して作成してくれた。

SDGsについては、社員にいろいろなことを聞くところから始めた。みんながSDGsの意味を納得するところから始まった。当社も外国人は4名雇用しているが、社員みんなが家族ぐるみでお世話をしたり、お手伝いすることが会社の一体感にもつながる。この一体感が今年5名、来年2名の採用につながっていると思う。

#### ■ SDGsを定着させるための施策

育児休暇なども、働き方の一環として取り組んだことがスタートで、国の施策もあるが、休暇中の社員の穴を埋める組織や仲間を大切にすることから始まっている。その結果、効率化や様々な情報の共有化も必要になった。SDGsのために行ったことではないが、結果として効率化であり環境SDGsや人に優しい経営につながっている。様々な指標もあるが、数字だけではないバランス感覚も大切と思う。当社は社員教育にも力を入れ、仕事に関する資格取得は幅広く認めている。成長する気持ちをバックアップすることが会社の役目と考える。資格を取るためにめっき学校へ毎週、夜に通学することは厳しいが、頑張ることでの仕事の効率も技術も上がっている。

#### ■ 会社概要

日本電鍍工業株式会社  
 本社 埼玉県さいたま市北区日進町1丁目137番地  
 創立 1958年(昭和33年)  
 代表取締役 伊藤 麻美  
 URL : <https://www.nihondento.com/>

現在の日本の基準で世界や日本を見渡して考えると、いろいろな分野で不平等はある。SDGsも、今の基準で発展し続けることは環境面でも難しいと思う。私たちは何が大事なものかを選択して生きていくのか、基準をしっかりとすることが大切だと思う。また、SDGsを進める中では、無理に推進することで、自社に無理強いをするようなことではなく、SDGsという基準を私たちの生活の一部にしていくことが大事である。むしろ、未来を背負う子供たちから学ぶことも多い。

#### ■ 他社へアドバイス 等

当社はISO14001、9001を取得している。ルールを守らないことは顧客にも社会にも迷惑をかけてしまう。私たちの行動が他の業界のイメージを悪くしないようにしていきたい。企業は「継続と存続」である。変わっていく社会に対応することが必要。利益だけではない。環境を維持するためにはお金もかかる、そのテーマに対応していく必要があり、良いものは、費用もかかる。これまでも、会社という看板を傷つけず、会社が無くなるようにすることが責務である。工場の空調も健康を書さないようにしているのは基本であり、従業員の方に誇りを持って働いてもらいたい。

SDGsの取組も、失敗を恐れる必要はなく、やってみてわかることもある、各社の業種、人数、地域などで目的や取り組み方は変わるはず。型にはめようとしてやっていることは無理があるので、従業員みんなを巻き込むことで知恵も出てくるし、活動が実りあるものになると思う。

